

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2090700212		
法人名	特定非営利活動法人 リアルリンク京都		
事業所名	走和の郷 (2階 ひまわり)		
所在地	京都右京区梅津石灘町48番地		
自己評価作成日	平成28年3月13日	評価結果市町村受理日	平成28年6月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JkyvosvoCd=2690700212-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	〒600-8127京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅津町83-1「ひと・まち交流館・京都」1階		
訪問調査日	平成28年3月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者・職員が笑顔で毎日を過ごし、一緒に笑い合える・心とむすぶ雰囲気作りを大切にしています。一人ひとりとゆっくり話す時間を作り、思いの把握に努めています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「走和の郷」は、元トレーニング場兼女子寮「走和寮」を改修し、平成27年3月31日、3ユニットのグループホームと小規模多機能型居宅介護事業所が開所されている。建物の内部はゆとりがあり、地域密着型事業所にふさわしく多目的室もあり、すでに地元住民の会合や、民生委員会、認知症サポーター講座等の会場に使われている。小規模多機能事業所では、「梅カフェ」を開店し地域の高齢者が楽しみに来られている。玄関に入ると正面に、手作りの大きな周辺地図が貼ってある。事業所の生活圏内の商店・学校・公共施設・医療機関・公園・嵐電の駅などが表示され、気の利いた職員の心くばりを感じさせられる。一方、運営やケアの面では、毎月家族に利用者の写真付きで手書きの便りを送り、日頃の様子を家族に伝え歓迎されている。家族アンケートも年1回実施し、家族の要望や意見を把握し、目下結果の検討がされている。現管理者は2月に就任されたばかりであるが幅広い介護現場の経験を活かし、職員からの情報収集や職員との関係づくりに努め、素早い課題把握と行動力に職員も同調しており、今後の展開にエールを送りたい。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼にて理念を声に出し、確認することで意識付けができています。またフロア内の目の届きやすい所に理念を掲示している。	理念は開設時、職員等の発案により、「3つのお約束」として設けられている。その約束の成果は「利用者職員と一緒にゆったりと過ごす場面」「利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる」「職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている」の「アウトカム項目」に、1年が経過した段階での全職員の自己評価に、理念の共有化や実践が確認できる。	理念はパンフレット・ホームページに掲載されているが、「走和通信」にも表示し、ケアに向けた姿勢をアピールされることを提案したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣のスカイハイツマンションの会合に会議室を使って頂いている。また、夏祭り行事では近隣の方への呼びかけを行い、参加して頂く事ができた。	開設早々町内会会員になっている。近隣の諸情報は民生委員から得ている。開設第1回目の夏祭りには近隣に声をかけ、子ども達の参加があった。幸い屋内が広く認知症サポーター研修を開催したり、地域住民の会合に会場の提供をし、地域との交流に向け取り組まれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	11月に認知症サポーター講座を開催した。また、2ヶ月に1回の運営推進会議にて地域の民生委員の方と意見交換を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た意見については、各ユニットや委員会にて話し合いを行い、改善に向けて取り組んでいる。	メンバーは包括支援センター・民生委員・利用者・家族である。地元町内会にも声はかけている。会議の場では、事業報告、事故、ヒヤリ・ハット、苦情報告等を詳しく報告している。職員の言動や接遇マナーへの苦情に対し、全職員対象に上司が指導を行い、各ユニットから改善策をだし、ユニット会議で振り返りを徹底させている。一方参加委員からは適宜的確な助言や情報提供があり、職員に伝え実践に繋げている。	グループホームは3ユニットの規模でもあり、委員増を検討されてはいかがでしょうか。地域の福祉ニーズに詳しい人、地域活動やボランティア活動等の情報に詳しい方との繋がりを求めたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議録を作成・提出し、報告をしている。	管理者は、2月に赴任されたばかりで、区・市の担当課には頻りに連絡を取り、相談にのってもらっている。2ヶ月ごとの右京事業所連絡会には出席し情報収集をはじめ、地域の人材や社会資源と接点を持ち連携を求める姿勢で取り組まれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を立ち上げ、研修の開催や各職員の意識の統一を図るためのアンケートの実施を行っている。身体拘束について各自考える時間を設けている。	「身体拘束ゼロへの取り組み指針」を管理者自らが作成し、職員対象に「どういものが身体拘束に当たるか」のアンケートを実施し、学習の資料としている。内部研修の欠席者には、伝達研修で全員の周知徹底を図っている。スピーチロックについては意味を学習し、現場で指導をおこない意識の強化に向け、事業所を挙げ取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を立ち上げ、勉強会を行っている。また、ご家族様にアンケートを行う事で、日々のケアを見直す機会としている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支	法人全体での研修会開催し、権利擁護について学ぶ機会を設けている。また、後見人制度を利用されている方に関しては、本人や後見人の方と話し合いの場を設けてい			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前よりゆっくりと時間を取り、説明をおこなっている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケートにより、ご意見ご要望を確認している。寄せられた要望に関しては、現在改善策を検討中である。	仕事に行く前に顔を見に来られたり、他県からの家族の面会もあり、面会は少なくなく、家族とのつながりは図れている。事業所は毎月家族に写真付きの便りを送り、利用者のホームでの様子を伝えている。年1回記名式の家族アンケートを実施し、改善や次年度の事業計画に反映させるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2度、職員の面談を行う。また、いつでも管理者へ話しやすい雰囲気を作っている。	2月に管理者は交代したばかりであるため、雑談も交え、職員の思い・希望・何が運営面で不足しているか等を聞く機会を設けるようにしている。と同時に職員会議、ユニット会議・全体会議・8種類の委員会会議との話し合いをし課題の把握に努めている。委員会の整理・女性職員への子育て支援、職員研修等の課題への着手を模索している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が交代した事もあり、思いを聞き、改善していている。また、希望等も聞く機会を適宜設けている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修を充実させるため、28年度からは、より職員のレベルにあった研修を企画している。また、キャリアアップ研修への参加も実施していく予定である。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	右京事業所連絡会への参加や、外部研修に参加する事で、同業者との交流を図っており、また、向上できるように取り組んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談の段階からフロアの計画作成者が同行し、顔なじみの関係を築くよう努めている。また、入居当日も計画作成者が出勤し、安心して入居して頂けるようにしている。本人の要望に沿ったケアプランの立案に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談の段階からフロアの計画作成者が同行し、顔なじみの関係を築くよう努めている。また、入居当日も計画作成者が出勤し、安心して入居して頂けるようにしている。ご家族の要望に沿ったケアプランの立案に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントシートを活用し、情報収集に努めている。また、担当ケアマネや病棟担当者、などからも情報や意見をもらい、広い視野での必要なサービスの見極めをする努力をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事の中でその方ができることを見極め、職員と一緒に行動するようにしている。また、入居者同士の関係性を築き、協力し合える関係性作りを努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には近況報告を行い、何かあれば家族の意向を確認し、共に考えケアの方向を決めるようにしている。また、家族としての役割を担って頂けないか確認し、外出の支援等ケアプランに反映させている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの場所への外出を取り入れたり、ご家族以外の方でも繋がりがあった方の面会を受け入れている。	利用者の趣味仲間の書道教室のお弟子さん、短歌の仲間、元の職場の部下等の来訪がある。また利用者から、馴染みの神社・大型スーパー、お漬物屋さん、おせんべい屋さんとリクエストは多く、可能な限り支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各入居者の性格や意向を確認し、他入居者との相性を考慮しながら、関わりが持てるよう席を考えたり、一緒に家事やレクリエーションを行うようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時、いつでも連絡ができるような声かけをおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン見直しの度に必ず本人の意向を確認している。また、本人の思いや習慣が共有できるよう24Hシートを作成し、職員間で共通理解できるよう努めている。	フェイスシートで利用者の思いや暮らし方の希望等把握している。24Hシートでは、時間・日課・意向・好み・自分で行えること・サポートの必要なことを記入し、利用者への理解を深め共有している。個別的な対応は介護計画に記入し実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に基本情報シートの作成を依頼している。その方の生活歴、生活習慣や環境、好きな事・嫌いな事など把握できるものとなっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の生活習慣・生活リズムの把握と共に、入居後1週間程で24Hシートを作成している。1日の過ごし方、意向・好み、出来る事、サポートの必要な事、心身状態等注意の必要な事が把握できるものとなっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議への参加を呼びかけている。参加ができない場合でも、要望を確認し思いが反映されるように努めている。	サービス担当者会議は管理者・計画作成担当者・担当介護職員・他の介護職数人で行い、利用者・家族も出席されることもある。会議前には利用者(家族)から意向確認をおこなっている。また、担当介護職員は毎月モニタリングし、計画作成者とともに計画見直しをしている。同時にアセスメント内容も見直している。計画ごとにサービス提供時の記録も書き、見直しに繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録にケアの内容や状態、気づき、ケアの工夫を記入し、職員は情報共有のため、記録の確認を行っている。また、申し送りノート使用し、情報の漏れが無いように気を付けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ボランティアの受け入れ等も現在検討している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区役所で開催しているまちづくり推進事業の一環であるフラワーアレンジメント教室への参加等、一人ひとりの思いに沿った暮らしに近付けるよう、努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族・本人の希望を確認している。特に希望されない方は、京都武田病院の訪問診療を依頼している。月2回の訪問診療と必要時スムーズに受診できるよう、関係性が築けている。	かかりつけ医は本人(家族)の希望により、全員が協力医療機関の医師としている。月2回の往診があり、緊急時の支援体制も整っている。希望により、訪問歯科・訪問マッサージを受けることができる。他科受診については職員が同行し、日常の心身の状態の報告をおこない指示を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の状態は日々看護職に報告・相談し、専門的な意見を求められる関係作りができています。本人・家族の意向を確認しながら、早め早めの受診ができるよう、支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も定期的に本人の状態確認を行うため、病院関係者・家族との連携を密にとる様になっている。また直接病院へ行き、本人の状態を確認する事も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に係る指針を作成し、契約時に書面にて説明・同意をいただいている。また、研修等行っている。	本人(家族)には「重度化に係る指針」に沿って契約時に説明し同意を得ている。しかし、看取りを支援する医師・看護師の協力については、現在検討中である。職員に対しては、看取りに関する意識づけを継続するために研修を行っている。開設以来、看取りの事例はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	管理者はじめ複数人は普通救命講習の修了者である。今後、全職員が対象となるようにしていく予定である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2度の消防署立会の訓練を行っている。また、シェイクアウト訓練にも参加した。	防災の避難訓練は、消防署立ち合いのもと利用者と共に年2回おこなっている。地震訓練では、頭を守る・机の下に隠れる等おこなった。水害時は屋上に避難するよう指導している。連絡網は職場に近く動きやすい職員から順次組んでいる。事業所での訓練に、地域住民の参加は得られていない。また、地域の消防訓練に事業所として参加出来ていない。備蓄は準備中である。	地震や水害訓練時も消防署の協力を得て、利用者・建物・設備に対応した実施訓練を期待したい。地域の消防訓練にも参加し、協力を得る足掛かりにされてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使い、対応方法については接遇に関する研修を行ったり、話し合いの場を持ち、定期的に見直す機会を作っている。	接遇・プライバシー研修はおこなっている。排泄に関することやスピーチロックについて事例を上げ話し合っている。日頃から、なれなれしい態度や言葉使いはしない、高齢者に対して失礼のない言葉を使う等、心掛けている。職員間で互いに注意し合うことを決めている。掲示する写真は同意書を受けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に選択して頂けるような言葉かけをするようにしている。また、担当の職員が思いや希望を定期的に確認できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意思を確認しながらケアを行うようにしている。またいい方法を一緒に考えたり、提案しながら一緒に決めるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧をされたり、好きな装飾品を着けておられる方が多く、その人らしい身だしなみの支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の食事準備や片付けは一緒に行い、役割ややりがいに繋がるよう支援している。また、食事作りや普段と違う食事のメニューを楽しんで頂けるよう、好みやリクエストに応じた料理レクリエーションを取り入れている。	食事は3食とも料理したものが業者から届く。主食はご飯であるが希望者にはパンの提供もしている。1口大・刻み食の対応もある。月2～4回利用者と一緒に料理する機会も設けている。通常は盛り付け～後片付けまでを一緒にしている。誕生日の昼食は本人の希望に合わせて、たこ焼き・お好み焼き・そば・うどん・スパゲティ等々を利用者とともに作りお祝いしている。手作りおやつではおはぎ・芋餅ぜんざい・フルーツポンチが好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりに合わせた食事量を提供し、食事摂取量・水分量をチェックしている。また、出来る限りご自分の力で摂取して頂けるよう、食事形態や使用道具を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後に口腔ケアを行うようにしている。その方の習慣も考慮しつつ無理強いはしないが、口腔ケアの意味を職員が意識しながら、出来る範囲ですすめるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、出来る限りトイレで排泄し、不快感の軽減と清潔の確保に努めている。夜間は安眠に繋がるよう、一人ひとりに合わせた排泄用具を検討し、支援している。	排泄表で個々の排尿間隔を把握し誘導に配慮している。適切な支援により、紙パンツ・パットの使用数が減少している。下着の清潔が保てない人には、入浴回数を増やすなどして対応している。ポータブルトイレの利用者は夜間のみ2名おられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師と相談しながら、下剤の調整だけでなく、水分量や運動量、必要に応じて乳製品等の摂取等もすすめ、適切な排便コントロールができるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の勤務体制により、すべての要望に応えられているわけではないが、出来る限り本人の希望を確認しながら入浴が楽しみとなるよう、支援している。	入浴は1日に3～4人である。個浴の湯はひとりひとり入れ替えている。希望者には同性介助を行い、利用者は午前か午後か選んでいる。入浴は楽しみの時間として提供できるように、利用者個々の習慣(最初に湯ぶねに入る・ゆっくり浸かる・シャンプーは2回する・自前のシャンプーやリンス等)を大切にしている。季節湯も楽しんでいる。入浴を拒否される方はおられない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも必要に応じて休んで頂く時間を設けたり、前夜の睡眠状況に応じた対応を行っている。夜間も安心して眠れるよう、室温調整や本人の好みを把握し、居室環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬効表をいつでも確認できるよう、個人ファイルに挟み、意識的に見るようにしている。また、薬に変更があった場合は、状態の変化を記録に残すよう努めている。看護師への報告も怠らないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握し、その方の得意な事・やりがいに繋がる事を見つけ、日々の暮らしに取り入れるようにしている。また、喫煙・飲酒等希望される方に関しては、希望に添えるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物等は、日々の暮らしの中で出来る限り意向に沿って支援している。その他動物園や初詣、トロッコ列車等希望に沿った外出に関しては、事前に計画し家族の参加も確認しながら行うようにしている。	散歩は公園にも行き、買い物を兼ね写真集やDVDを見にいたり図書館に行く等、個々の希望に合わせて出かけている。行事に動物園やトロッコ列車を楽しむ遠足が組まれている。少人数でも希望があれば、秋桜やイルミネーション見学にも出かけている。行事外出は家族の参加を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持能力のある方、希望される方に関してはお小遣い程度のお金を自分で管理して頂いている。基本お金はお預かりしているが、買い物同行時支払い能力のある方には支払いをお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っておられ自由に電話されたり、電話を希望された方はフロアの電話からいつでも掛けられるようにしている。手紙等郵便物の関しても近くのコンビニまで同行し、切手購入・投函までして頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓や安全に移動できる空間確保に常に心掛けている。また、温度調整や光・音の調整にも注意を払っている。壁画には季節感を取り入れ、入居者と一緒に制作している。	リビングは整理され明るく広い。貼ってある書道はプロ級の達筆である。本箱に文芸春秋らとともに月刊誌「好日」短歌の本が並んでいる。利用者に短歌の先生がおられ、多くの歌が掲載されている。リビングに面した居室ドアに平安時代の女性たちを描いた風呂敷が掲げてある。現役時代の利用者の作品である。牛乳パックを組み合わせ布を巻き縫い付けた椅子も、利用者との共同作品である。利用者個々のアルバムがあり、散歩で摘んだ野の花が活けてある。職員の思いのなかで集う、利用者の笑顔があった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓以外にソファでくつろげる空間を作っている。自由に本を読めたり、少し他の方と離れて過ごせるため、気に入っておられる方も多い。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に出来る限り馴染みのある家具や寝具類、写真等の飾れる物の持参をお願いしている。入居後に作られた作品や写真等も飾り、居心地のいい居場所となるよう努めている。	女子寮として使われていた居室はとても広く、掃除もゆきとどいている。洋服ダンス・整理ダンス・ソファ・籐椅子・仏壇・勉強机等々、お気に入りを持参されているが空間は十分にある。居室内で家族が休めるスペースも確保されている。室内には家族写真や自作品が飾っており、なかでも息子さんが撮られた風景写真は母への思いが伝わる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室がわかりやすい工夫をしたり、キッチン内も入居者が使いやすい環境にしている。洗濯物をたたむスペースも設けており、自発的に参加して頂いている。		